文化

竹製ギターに夢見る

◇透き通った音に魅了　一時製作離れるも「お告げ」で再開◇

中山　修

コン、コン。表板をたたいて音を確かめる。ちょっと響きが重いかな…。小さなかんなで削って調整し、もう一度たたく。コン、コン、コン。うん、良くなってきたぞ。

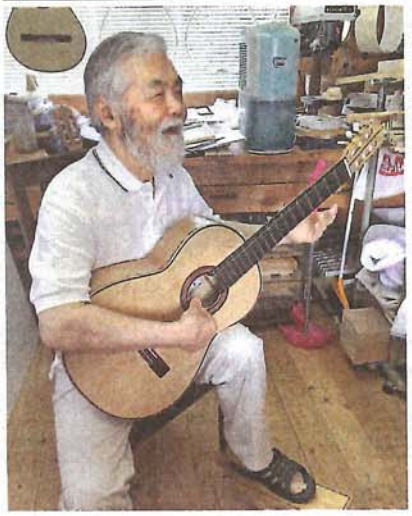
♪♪♪

地元の竹で製作

福岡県久留米市で、20年ほど前からギターを作っている。といっても、ドイツ松や米杉を使った一般的なものではない。材料は福岡産の竹。日本広しといえど、本格的な楽器として竹のギターを作るのは私だけだろう。

1本作るのに、直径18センチほどの竹を8本使う。四つ割りにしてグツグツと釜ゆでし、半年干す。丸い竹筒のままでは胴もさおも作れない。細く切った竹板を80枚以上手作業で張り合わせ、厚さ9ミリの合板にする。竹は反りやすく、割れやすいため、一つ一つの部材を作るのが難しく、初めは失敗の連続だった。

最も神経を使うのは、表板の調整だ。わずかの違いで音色や響きが大きく変わるので、何度もたたいて音を確かめながら念入りに仕上げていく。うまくいけば、ホールのすみずみまで届く、芯のある音色になる。松材のやわらかく深い音、杉材の明るい音とはちがう、シャープですがすがしい音質が特徴だ。手間がかかるので1年にせいぜい6、7台しか作れない。



自作の竹製ギターを手にする筆者

秋田で生まれ、新潟で育った。ギターに興味をもったのは中学生のころ。友達のお兄さんが弾いているのをみて憧れた。当時、「ギターは不良の楽器」と思われていたから、親に内緒で鉄くず拾いのアルバイトをしてギターを買った。「友達の家に勉強に行く」と言って、教室に通った。

♪♪♪

「音はおもちゃだね」

ところが先生が発表会に親を呼び、あっさりばれてしまった。頑張る我が子の姿を見て感動したのだろう。20万円もする立派なギターを買ってくれたうえ、東京の有名奏者のレッスンに通わせてくれた。週に1度、1万円が入った月謝袋を握りしめ、特急で東京に向かう。東京の大学に入学してからも、ギターのレッスンに通い続けた。

「スペインで修業しておいで」と先生に言われたのが大学2年のころ。映画「禁じられた遊び」の演奏で知られる名ギタリスト、ナルシソ・イエペス先生のもとへ送り出してくれた。意気揚々と留学したのだが、到着早々、現地のギター製作者からショッキングな言葉をかけられる。「きみのギターは形は素晴らしいが、音はおもちゃだね」

日本の一流製作者が手がけたものだった。びっくりして日本の先生に電話をすると「おまえ、くやしいだろう。そっちでギター作りの技術を究めてこい」。発奮して、昼はギターレッスン、夜は工房でギター作りの修業という日々が始まった。

あっという間に9年がたち、親から「いいかげん帰ってこい」と連絡がきた。親は銀行員にしたがったが、そんな気はない。長野に移り、ギターの演奏と製作をして暮らすようになった。そのころイエペス先生が来日し、私のギターを弾いてくれた。おかげで知名度が上がり、ギターの値段は5倍に跳ね上がった。

♪♪♪

事故で両手首痛める

結婚もして順風満帆だった生活が一転したのは38歳のとき。バイク事故で両手首をいためてしまった。「演奏できない人間がギターを作っても仕方ない」と思い詰め、ギターの楽譜も、図面も、材料も、一切合切、燃やしてしまった。妻の実家の福岡に移り住み、木工所で働きはじめた。

定年を目前にしたある日、竹製ギターの夢を見た。なぜだか頭から離れない。もう一度、ギターを作れというお告げのような気がして、「まだ誰も見たことがないバンブーギターに挑戦しよう」と決意した。試行錯誤の連続で最初の1本が完成するまで約3年。それから改良を続けている。

だんだんと知られるようになり、買いたいという人も現れた。人気ギタリストの村治佳織さんもその一人。竹ならではの音色と、バンブーギターにかける情熱が伝わったと思うと、とてもうれしい。10年ほど前からギター製作の教室も開いている。なかなか筋の良い弟子もいて心強い。

作り始めたころは「単なる民芸品」「鳴らないギター」と散々な言われようだった。でも、そうした言葉に育ててもらったような気がする。夢はバンブーギターを本場スペインで認めてもらうこと。かの地のギターのように、もっと美しく、深く、そして力強い音が出るギターを目指して、日々、製作に打ち込んでいる。（なかやま・おさむ＝中山工房主宰）

「歩く男Ⅰ」（1960年、ブロン
ン＝ポール・ド・ヴァンス、マ
ット＆エメ・マーグ財団美術館
Archives Fondation Maegh
nt−Paul de Vence (France)

「ヤナイハラの頭部」（1956〜61年、ボールペン、青インク、破いた紙ナプキン、神奈川県立近代美術館《旧矢内原伊作コレクション》蔵）

るものを見えるままに造形することに執着した。これが、簡単なようで難しい。シュルレアリスムやキュビズムの影響けが幾らか真実だと私には思われた」。人間の存在の真実を追究することは、それほど切実で深刻なテーマだった。

作、肉付きや骨格といった特徴をすべてはぎ取った時、そこには何が残るのか。凝視し続けた結果、残されたのがこの造形。表層的な個性に惑わされがちな現代人には、未恐ろしくさえ感じられる。

（編集委員　窪田直子）

交遊抄

の人

旧三井銀行でロサンゼルスに駐在していた1985年、小切手にサインをもらうため探し回った人がいる。パソナグループ代表の南部靖之さんだ。日系人材サービス会社の米国進出のはしりとなった「テンポラリーセンターUSA」をインをするとロスを去った。

親しい人から「イントロの南部」と言われる通り、南部さんの特技は紹介、人をつなぐことだ。ロスから帰国した87年、南部さんに連絡すると、パーティーに誘われるようになり多くの知己を得た。ソフトバンクグループの孫正義社長ら、ベ

久

◇『働き方の男女不平等　理論と実証分析』（山口一男著、3200円）

◇『相続の日本史』（安藤優一郎著、日経プレミアシリーズ、850円）＝価格は税抜き